

行政視察等報告書

令和元年10月9日

境港市議会
議長 終 康弘 様

自民クラブ
荒井 秀 行



下記のとおり研修を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察期間	令和元年10月3日(木) 10:00~12:00
2 視 察 先 及 び 内 容	【視察先】 地域共生社会実現拠点「いくらの郷」 鳥取県西伯郡南部町下中谷1528 ～持続可能な町づくりのために、 自然溢れる環境で課題解決を試みる～
3 視察議員	荒井秀行、永井 章、佐名木知信、築谷敏雄
4 視察経費	合計(4名) 2,000円 (一人当たり500円) ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

報告者：築谷 敏雄

視察内容：南部町「いくらの郷」 10:00~12:00

・学校や社会になじめないまた、社会への第一歩が踏み出させずにいる
若者を対象の共同作業所としての地域共生社会実現への取り組み

説明者：運営主体

社会福祉法人	伯耆の国	特別養護老人ホーム	ゆうらく
	理事長	山野	良夫
いくらの郷	施設長	坂本	昭文
	相談指導員	勝部	秀美

【報告及び所見】

- ・この施設は、西伯郡南部町の緑水湖から山間に入った、下中谷の入蔵という地域にあり、自然に溶け込んだ古民家を改装した施設を拠点として活動されている。学校や社会になじめない若者を受け入れて、農業、林業体験など自然の中での共同作業を通じて、自身とやる気を引き出し、社会参加を支援している。現在3名の方が利用されている。
- ・地元への対応については、地域の中では、道路や荒廃地の草刈りなど奉仕活動などを行い、信頼関係を築き、今では、利用者の作業に地元農家も協力し、野菜の植え付けなどの指導をしながら一緒に栽培を行っている。また、いくらの郷には、地域の皆さんも利用できる加工施設が併設され、地元農家グループがウメやタケノコの加工品を製造し、利用者は材料の調達を行うなど、地域の皆さんに喜んでもらい、話すことが苦手な利用者も自然に交流できるようになった。そして、こういった交流が地域の元気に繋がっている。
- ・現状と背景については、15歳から29歳までの若年層の内、就職、就学せず、職業訓練を受けていないニートは、国内で170万人もいるとされ、また、30歳未満の32万人がひきこもり状態のあると言われている。南部町のひきこもり者数は正確ではないが、推計150人から200人である。こうした社会的な課題の解決に豊かな自然環境や人の繋がりがなど、農村の持つ力を生かすことがいくらの郷のコンセプトになっている。
- ・財源・財政的支援については、まず、施設整備費は、共生社会実現拠点整備補助金（内閣府補助金）38,000千円（国1/2・南部町1/2）で、運営費は、南部町社会福祉充実残高25,000千円（5,000千円/年×5年）、社会福祉法人伯耆の国地域貢献事業10,000千円であり、事業所の利益はほぼ無し、地域に全額還元とはしているが、厳しい状況にある。
- ・中山間地以外でこのような事業をするとすれば、どのようなことを行ったら良いのか。同じ状況というのは二つと無いので、それぞれの地域に応じた努力をするしかないのでは。ただ共通することは、年金なんかではなく、ほんとうにその人のために何が大事なのかという事をとことん追求して行けば、その一つとして年金がありその生活を支えていくと言うのも一つの手段であるが、それで終わってはならない

と思う。やはり、その人の幸せのところをどのように実現していくのが大事で、そういうところを考えながら、できる場所、できる事、できる人を集めて行う事ではないか。参考までに、木工細工はどこでもできて、非常に力になると考える。もう一つは自分が持っている物を表現させるために絵を描いたりすることが市部においては可能ではないかと思う。境港は境港にあった事をしていけばいいのでは、と坂本施設長からアドバイスを頂いた。

本市においても、地域資源をうまく利用し、いくら郷のような取り組みができないか、行政としても検討ができないか、また、会派内においても、研究したいと考える。